

神奈川県微生物検査情報

<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県衛生研究所

第 154 号

(2005年10月)

平成 17 年 12 月 19 日発行

速報：ノロウイルスによる食中毒・感染性胃腸炎発生!!

・今シーズンの発生事例の紹介

速報：つつが虫病患者の検査結果

- ・平成 17 年度は疑い症例が 23 例あり、現在のところ 18 例の患者がつつが虫病と判定されています。
つつが虫病検査結果とあわせて臨床所見も掲載しました。
- ・感染推定場所は、南足柄市、山北町、小田原市付近です。

ヒト由来細菌情報

県内医療機関から受領した咽頭拭い液、定点医療機関より依頼のあったマイコプラズマ肺炎患者からマイコプラズマ ニューモニエが検出された。

食品由来細菌情報

食中毒様事例に伴う原因調査で検食から黄色ブドウ球菌、セレウス菌が検出された。

環境由来細菌情報

県内定点 10 カ所の河川水調査で O1 & O139 以外のコレラ菌、サルモネラが検出された。
温泉水の検査でレジオネラ ニューモフィラが検出された。
検査依頼の浴槽水からレジオネラ ニューモフィラが検出された。

集団発生情報

県域での発生

(細菌)

- ・食中毒の集団発生で患者便からカンピロバクター ジェジュニーが検出された。

(ウイルス)

- ・食中毒様胃腸炎の発生は 3 事例あったが、ノロウイルスは検出されなかった。

県域外発生関連調査

他の自治体で発生した食中毒様胃腸炎 1 事例の検査依頼があったが、ノロウイルスは検出されなかった。

ウイルス情報

検査定点からの依頼によるもの

10 月に採取された検体から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルス A9 型が 1、パレコウウイルス 1 型が 1、ムンプスウイルスが 2、アデノウイルス 3 型が 1、単純ヘルペスウイルス 1 型が 2 およびノロウイルスが 1 であった。

検査定点以外の医療機関からの依頼によるもの

つつが虫病様患者からオリエンチア ツツガムシが検出された

(微生物部・地域調査部)

速報

ノロウイルスによる食中毒・感染性胃腸炎発生

11月に入り、全国各地でノロウイルスによる食中毒や感染性胃腸炎の集団発生が報告されています。神奈川県でもノロウイルスによる食中毒2事例（表1）、感染性胃腸炎1事例（表2）が発生しました。ここでは各事例の概要について紹介します。

表1. 食中毒事例

事例 No.	発生 月日	原因施設	喫食者数	発症者数	患者		調理従事者等		遺伝子群
					検体数	陽性数	検体数	陽性数	
1	11.16、 11.18	旅館	53	26	6	6	13	2	GII
2	11.26	飲食店	13	11	8	6	3	1	GI

表2. 感染性胃腸炎事例

事例 No.	発生 月日	原因施設	患者の区分	発症者数	検体数	陽性数	遺伝子群
3	11.28	介護老人 保健施設	入所者	6	8	6	GII
			職員	2			

<事例1：食中毒>

11月16日と18日に旅館に宿泊し、会食した56名中26名が下痢、腹痛、嘔吐等の食中毒様症状を示しました。患者便6検体すべてからノロウイルスGが検出され、調理や客室系の従事者便13検体中2検体からもノロウイルスGが検出されました。患者の共通の食事がこの施設での食事のみであり、症状が共通していることや複数の患者便からノロウイルスが検出されたことから、この施設の食事を原因とする食中毒と決定されました。

<事例2：食中毒>

11月26日に飲食店で13名が会食し、11名が下痢、腹痛、嘔吐等の症状を示しました。検査の結果、患者便8検体中6検体からノロウイルスGが検出され、調理従事者便3検体中1検体からもノロウイルスGが検出されました。事例1と同様に、患者の共通の食事がこの施設での食事のみであったこと、症状が共通していること、患者を診察した医師から食中毒の届出があったことから、この施設の食事を原因とする食中毒と決定されました。

<事例3：感染性胃腸炎>

介護老人保健施設で入所者42名中5名に下痢、嘔吐の症状があり、職員25名中2名が体調不良で休んでいました。症状のあった患者8名のうち6名および非発症の調理従事者5名の便についてウイルス検査を行いました。患者便6検体中4検体からノロウイルスGが検出されましたが、調理従事者便5検体からはノロウイルスは検出されませんでした。施設に対して聞き取り調査をした

結果、この事例は食中毒ではなく、感染性胃腸炎の集団発生と決定されました。

昨年まではノロウイルス G が検出される事例がほとんどでしたが、今年は5月にノロウイルス G による食中毒や感染性胃腸炎事例が発生しています。今回紹介した事例からもノロウイルス G や G が検出されたことから、今後、G 、G ノロウイルスによる食中毒や感染性胃腸炎が多発する可能性が示されました。

今年もウイルスによる食中毒や感染性胃腸炎が多発するは時期になりました。調理や介護の前には、手洗いやうがいをするなどの感染予防に努めるとともに、便や吐物を処理する場合は、手袋を使用し、周囲の清掃と殺菌を充分行うよう心がけましょう。衛生研究所では各保健所と連携し、迅速に原因ウイルスを検出し、感染の拡大防止に努めていきます。

(リケッチア・下痢症ウイルスグループ 古屋由美子)

ノロウイルス補足資料

ヒトへの感染経路

ノロウイルスの感染にはヒトの糞便中に排泄されたノロウイルスが下水から河川を通り海に流れ込み、カキなどの貝類に蓄積し、汚染された貝を喫食することにより感染する場合と、ノロウイルスに感染した調理従事者等の手を介して食品を汚染し、汚染された食品を喫食することにより感染する場合(ノロウイルスによる食中毒)があります。また、それ以外には、食品を介さず吐物や便などの排泄物からヒトが直接感染を受けたり、手指等を介した経口感染(ノロウイルスによる感染症)などがあります。

(神奈川県衛生研究所ホームページより)

その届け出は...

食品衛生法での取り扱い

食中毒が疑われる場合は、24時間以内に最寄りの保健所に届け出る。

感染症法における取り扱い

感染性胃腸炎は5類感染症定点把握疾患に定められており、全国約3,000カ所の小児科定点より毎週報告がなされている。報告のための基準は以下の通りとなっている。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの

1. 急に発症する腹痛(新生児や乳児では不明)、嘔吐、下痢
2. 他の原因によるものの除外

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(国立感染症研究所感染症情報センターホームページより)

速 報

つつが虫病患者の検査結果

11 月にはつつが虫病患者が多く確認されましたが、12 月に入るとつつが虫病を疑う患者の発生数は減っています。しかし 17 年 3 月には、つつが虫病患者が発生しましたので、まだ注意は必要です。

今年の検査結果

平成 17 年度はつつが虫病を疑われた症例が 23 例あり現在のところ 18 例の患者がつつが虫病と判定されています。表 1 に示ように、18 例のうち蛍光抗体法による抗体検査のみ陽性は 5 例、抗体検査と PCR による抗原検査の両方共に陽性は 13 例であり、抗原検査のみ陽性となった例は本年度では現在までのところ確認されていません。

患者の感染推定場所は神奈川県南足柄市、山北町、秦野市、小田原市付近です（表 1）。また表には示していませんが、静岡県下田市に出かけて行って感染したと思われる県内の患者が 1 例確認されています。

表 1 平成 17 年度つつが虫病検査結果（検出状況）

(H17.12.14 現在)

No	感染推定場所	初回採血日	検査結果		患者確定
			抗体検査	抗原検査	
			蛍光抗体法	PCR	
1	不明	H17.5.10	回復期血清なし	-	
2	湯河原町付近	H17.5.19	回復期血清なし	-	
3	小田原市付近	H17.9.21	回復期血清なし	-	
4	南足柄市荻野付近	H17.10.31	+	+	
5	秦野市渋沢付近	H17.11.2	+	+	
6	山北町岸付近	H17.11.7	+	+	
7	山北町付近	H17.11.5	+	+	
8	南足柄市内山付近	H17.11.7	+	+	
9	秦野市付近	H17.11.9	+	+	
10	山北町付近	H17.11.9	+	+	
11	山北町付近	H17.11.10	+	+	
12	南足柄市塚原付近	H17.11.15	+	-	
13	山北町付近	H17.11.16	+	-	
14	山北町湯触付近	H17.11.17	+	+	
15	山北町付近	H17.11.21	+	-	
16	山北町付近	H17.11.21	検査中	-	
17	山北町山北山付近	H17.11.22	検査中	-	
18	南足柄市三竹付近	H17.11.24	+	+	
19	山北町付近	H17.11.25	+	+	
20	小田原市根府川付近	H17.11.25	+	+	
21	静岡県下田市付近	H17.11.28	+	-	
22	南足柄市怒田付近	H17.11.28	+	+	
23	秦野市柳付近	H17.11.28	+	-	

つつが虫病患者の臨床所見及び検査所見

各医療機関の先生のご協力により、つつが虫病・紅斑熱様患者調査票の臨床所見と検査所見を表2にまとめました。

つつが虫病では、一般的に言われているように、発熱、発疹、全身倦怠を主症状とし、頭痛や筋肉痛を訴えている患者が多く見られています。また血液所見では、白血球数が増加している患者が多少見られますが、多くの患者では白血球数の増加は少なく、CRP、GOT・GPT、LDHの上昇や尿中の蛋白、潜血などに代表される肝機能障害、腎機能障害が見られています。

表2 つつが虫病を疑われた患者の臨床所見と検査所見

(H17.12.14 現在)

患者番号	検査結果		臨床所見*						検査所見*							患者確定				
	蛍光抗体法	PCR	刺し口	発熱	発疹	リンパ節腫脹	その他			血液所見					尿所見					
							全身倦怠	頭痛	筋肉痛	肝腫脹	白血球数	CRP上昇	DIC	GOT上昇	GPT上昇		LDH上昇	蛋白	潜血	
1	回復期無し	-	右足									5,300								
2	回復期無し	-		39	腹、足	左頸部	+	+	+			13,600								
3	回復期無し	-	不明	38	全身		+		+	+		12,300	+		+	+	+	+		
4	+	+	左足	37.5	腹		+	+				3,500	+		+	+	+	+		
5	+	+	胸	38	全身	右頸部	+					4,280	+				+			
6	+	+	背	38	全身	左鼠径	+					10,700	+		+		+	+	+	
7	+	+	腹	39	腹、背	部位記載無し	+					3,400	+		+	+	+	+	+	
8	+	+	腹	37.2	顔、胸、腹、背、腕、手、足	部位記載無し	+	+	+			5,900	+		+	+	+	+	+	
9	+	+	右足	有	全身	不詳						5,500	+		+	+				
10	+	+		38.8	全身		+					9,900	+				+	+		
11	+	+	腹	38.7	胸、腹		+	+				6,400	+		+	+	+	+		
12	+	-	右足	39.3	全身	右鼠径						6,300	+		+		+	+	+	
13	+	-	左手	38	胸、腹、背		+	+	+			8,600	+		+		+	+		
14	+	+	左足	39	胸、腹、背		+	+	+			5,500	+		+	+	+	+		
15	+	-	左足	37.7	胸、腹		+	+	+			5,200	+		+	+	+			+
16	検査中	-	胸				+		+											+
17	検査中	-			腹、背、足															
18	+	+		39	胸、背	左頸部	+	+				4,000	+		+	+				
19	+	+	腹		全身							9,400					+	+	+	
20	+	+	右腋窩	有	全身	左頸部	+	+				2,400	+							
21	+	-	頭、両手	39.8	全身		+													
22	+	+	左足	40	全身	左右鼠径	+		+			10,100	+		+	+	+	+	+	
23	+	-	有り	37.8	全身	左腋窩	+					5,300	+		+	+	+	+		

*：臨床所見、検査所見中の+は所見有りを、空欄は所見無し又は未記入を示す。

感染の予防について

年明けの春に野山などに行く場合は、地面や落ち葉に直接ヒフをふれないようにするとともにツツガムシに対する忌避剤を使用するなどムシに刺されないよう十分注意してください。

(リケッチア・下痢症ウイルスグループ 片山 丘)

平成16年度発生状況、その他については [神奈川県微生物検査情報 第152号参照](#)

表1 ヒト由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年10月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	376	334	510	889	142	60	350	264	54	244	118	3341	11	3352
海外渡航者数														
カンピロバクター ジェジュニー			3									3		3
マイコプラズマ ニューモニエ													4	4

ヒト由来の検体3352件を検査した。

藤沢保健所で食中毒の集団発生があり、患者便からカンピロバクター ジェジュニーが3件検出された。

県内医療機関から受領した咽頭拭い液から3件、定点医療機関より依頼のあったマイコプラズマ肺炎患者より1件マイコプラズマ ニューモニエが検出された。

表2 食品由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年10月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	5	5	23	30	16		10	23	16			128	20	148
黄色ブドウ球菌				2								2		2
セレウス菌				1								1		1

食品由来の検体148件を検査した。

小田原保健所の食中毒様事例で検食から黄色ブドウ球菌(コアグラーゼ型 Enterotoxin B産生)が2件、セレウス菌(Enterotoxin産生)が1件検出された。

表3 環境由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年10月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数		24	10	32			1					67	40	107
黄色ブドウ球菌				3								3		3
セレウス菌				5								5		5
O1&O139以外コレラ菌													7	7
サルモネラ O4群													2	2
サルモネラ O7群													1	1
サルモネラ O8群													1	1
レジオネラ ニューモフィラ 3群													2	2
レジオネラ ニューモフィラ 4群													2	2
レジオネラ ニューモフィラ 5群				1									1	1
レジオネラ ニューモフィラ 6群													3	3

小田原保健所の食中毒様事例でふきとり検査検体から黄色ブドウ球菌(コアグラーゼ型 Enterotoxin B産生)が3件、セレウス菌(Enterotoxin産生)が5件検出された。

県内定点10カ所の河川水腸管系病原菌調査を行ったところ、O1&O139以外のコレラ菌7件、サルモネラO4群2件(型別不能)、サルモネラO7群(血清型Montevideo)、サルモネラO8群(血清型Litchfield)が検出された。

温泉水10件の検査を行ったところ、レジオネラ ニューモフィラが4件検出された。血清型は3群、5群、6群の同時検出(1件)、4群、6群の同時検出(2件)、3群(1件)であった。

小田原保健所に検査依頼のあった浴槽水からレジオネラ ニューモフィラ5群が1件検出された。

表4 ウイルス検出状況(月別) - 平成16年10月～平成17年10月

疾患名 検出ウイルス	10月	11月	12月	平成16年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	平成17年累計
インフルエンザ AH3				159	14	47	13								74
インフルエンザ B				3	21	75	9								105
パラインフルエンザ 3				1											
R S		1	2	3											
ポリオ 3									1						1
コクサッキー A2				3											
コクサッキー A4				5							1				1
コクサッキー A5												1			1
コクサッキー A6				3					2	9	9				20
コクサッキー A9				1										1	1
コクサッキー A10										1					1
コクサッキー A12				1											
コクサッキー A16	2	2		9		1				4	3		4		12
コクサッキー B1				2											
コクサッキー B3											1				1
コクサッキー B4				1											
コクサッキー B5			1	2											
エコー 3										2	1				3
エコー 6				1						2					2
エコー 18				7											
エンテロ 71									1						1
パレコー 1														1	1
ムンプス				1					5	10	2			2	19
アデノ 2				1		1			1	1	1				4
アデノ 3	1	1	2	9	3					1		1		1	6
アデノ 4							1								1
アデノ 5									1						1
アデノ 40/41				1											
単純ヘルペス 1					1					1				2	4
ロ タ				3		1	12	1	12						26
ノ 口	27	6	180	332	101	21	23	2	17	7				1	172
サ ボ									31						31
未 同 定				3			1			1	7	8			17
オリエンチア ツツガムシ														1	1
合 計	30	10	185	551	140	146	59	3	71	39	25	10	4	9	506

表5 ウイルス検出状況（疾患別） - 平成17年10月

疾患名 検出ウイルス	ウエストナイル熱	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	除麻しん（成人麻しんを）	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	食中毒	その他	合計
取り扱い検査件数	1	1	1	1			4				3	6	2	43	3	65
コクサッキー A9											1					1
パレコー 1				1												1
ムンプス											2					2
アデノ 3															1	1
単純ヘルペス 1									2							2
ノロ							1									1
オリエンチア ツツガムシ		1														1

10月分コメント

集団発生

・平成17年10月、県域で食中毒様事例が3例あり、患者便21検体、患者吐物1検体および従事者便19検体の検査を行ったが、ノロウイルスは検出されなかった。

県域外発生関連調査

・他の自治体から依頼のあった食中毒様1事例の患者便2検体の検査を行ったが、ノロウイルスは検出されなかった。

発生動向調査の病原体検査定点からの依頼によるもの

- ・急性脳炎患者1件3検体（髄液、咽頭拭い液および便）を検査したところ、便検体からパレコーウイルス1型が分離された
- ・感染性胃腸炎患者1名からノロウイルスが検出された。
- ・ヘルパンギーナ患者の咽頭拭い液4検体を検査したところ、2検体から単純ヘルペスウイルス1型が分離された。
- ・流行性耳下腺炎患者の咽頭拭い液3検体を検査したところ、2検体からムンプスウイルスが分離された。また、ムンプスウイルスが分離された患者の同一検体からコクサッキーウイルスA9型1株が分離された。
- ・インフルエンザ様疾患患者の咽頭拭い液6検体について検査したところ、ウイルス分離および遺伝子検査ともいずれも不検出であった。
- ・その他、ウイルス感染が疑われた上気道炎症状を呈する患者の咽頭拭い液1検体を検査したところ、アデノウイルス3型が分離された。

発生動向調査の病原体検査定点以外からの依頼によるもの

・足柄上保健所管内の医療機関から依頼のあったつつが虫病様患者1名からオリエンチア ツツガムシが検出された。